

# 普及活動現地情報

## 「農業現場では、今」



【伊都振興局】 小学校でかきの渋抜き体験を実施～かきのお話を聞く児童～

令和7年10月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

## は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



## < 目 次 >

	頁数
<b>I 海草振興局</b>	<b>1-2</b>
1. 「匠の技伝道師」温州みかん栽培技術研修を開催	
2. 新規就農者研修（農業機械コース）を開催	
3. 小学生が稲刈りを体験	
4. 和歌山地方農村青年交流会を実施	
<b>II 那賀振興局</b>	<b>3-4</b>
1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～那賀いちご若手コミュニティが勉強会を開催～	
2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催	
3. 那賀地方農業士会女性部会（カトレア会）が交流会を開催	
<b>III 伊都振興局</b>	<b>5</b>
1. 小学校でかきの渋抜き体験を実施	
2. 梅干し贈呈式および「梅と梅干しのお話し」の実施	
<b>IV 有田振興局</b>	<b>6</b>
1. 御霊小学校で温州みかんの出前授業を開催	
<b>V 日高振興局</b>	<b>7-8</b>
1. 日高果樹技術者協議会が総会を開催	
2. 重点プロジェクト【うめの安定生産による産地強化】 ～「南高」摘心＋カットバック処理樹の現地検討会～	
3. 施設ピーマンにおける天敵利用の推進	
4. 「日高の味交換会」を6年ぶりに開催	
<b>VI 西牟婁振興局</b>	<b>9</b>
1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進に よる産地維持】～カットバック整枝＋摘心処理樹のせん定及び農業機械の安 全使用講習会を開催～	
<b>VII 東牟婁振興局</b>	<b>10</b>
1. 補助事業説明会を開催	
2. うめ摘心カットバック剪定講習会を開催	

<b>Ⅷ 農林大学校</b>	<b>11</b>
1. 1年生のインターンシップ研修	
2. 2年生の市場流通研修	
 <b>Ⅸ 農林大学校就農支援センター</b>	 <b>12</b>
1. 令和7年度技術修得研修（第2班）開講	

# I 海草振興局

## 1. 「匠の技伝道師」温州みかん栽培技術研修を開催

10月1日、農業水産振興課は、海南省下津町の「匠の技伝道師」橋詰 孝氏の温州みかん園において、本年度2回目の栽培技術研修会を開催し、新規就農者ら13名が参加した。今回は、「着果の少ない樹に対しての予備枝設定」をテーマに研修を行った。

研修会では岩橋普及指導員から本年の気象と生育概況の解説と、橋詰氏から着果のない部位に対して、予備枝設定の実演を交えながら栽培ポイントについての説明があった。

特に、橋詰氏の観察から「通常であれば生理的な花芽分化の判断基準が見えるのだが今年はその兆候がない」、「今年は梅雨の時期から高温傾向で8月はほとんど雨が降っていない」、「みかんの樹に何が起きているのか見えにくい状況」、「改めてみかんの花芽分化について詳しく調べる必要がある」といった話があった。

研修生からも積極的に質問があり、活発な研修会となった。次回はせん定を中心とし、みかんの花芽分化についても学ぶ研修を予定している。



研修会の様子



予備枝設定の説明

## 2. 新規就農者研修（農業機械コース）を開催

農業水産振興課では、農業者の技術向上を図るため、10月7日にJ Aわかやま海南営農生活センターにて「刈払機の基礎研修会」を開催し、新規就農者ら7名の出席があった。

はじめに、池谷技師が刈払機の事故、正しい使い方、刈払機の構造、メンテナンス方法について説明を行った。その後、刃の付替、グリスの注入、エアクリーナーの点検を実践しながら説明し、各自持参した刈払機を用いてメンテナンスを実施した。参加者は座学で学んだ内容を確認できたようであった。

刈払機のメンテナンス完了後、海南省東畑にあるほ場へ移動し、実習を行った。今回は草刈り前に異物・障害物を取り除くため危険物に模した色付き割りばしを探し、参加者は草刈り時も危険物（色付き割りばし）に注意を払いながら実習を行った。

参加者は、「メンテナンス後の機械は違う」、「危険物を見つけるのが難しい。草と一緒に刈ってしまった」と話をしていた。



刈払機の基本知識についての講義



ほ場にて実習する参加者



### 3. 小学生が稲刈りを体験

農業水産振興課では、農作業体験を通じて農産物の生産現場について関心や理解を深め、食べ物を大切にする心を育てることを目的に、体験学習の指導を行っている。10月16日、和歌山市梅原の貴志正幸氏の水田において和歌山大学教育学部附属小学校の5年生63名を対象に稲刈りの体験学習会を行った。6月に自分たちで植えた稲を収穫するということで児童たちはやる気に満ちていた。

児童は貴志氏から鎌の使い方や収穫した稲の縛り方について説明を受けた後、稲刈り作業を体験した。鎌を初めて使う児童が多く、苦戦しながらも稲刈りを楽しんでいた。その後、稲架（はさ）掛けを行い、刈り取った稲を丁寧に干していた。

体験後、児童からは「米を作るときに工夫していることはあるか」、「一束（4株）でお茶碗何杯くらいなのか」などの質問があり米作りについて学びを深めていた。



稲刈り体験



稲架（はさ）掛け

### 4. 和歌山地方農村青年交流会を実施

10月18日、和歌山地方農村青年交流促進協議会（会長：堀内信宏氏）主催で和歌山地方農村青年交流会が開催された。この交流会は、地域農産物や伝統文化に関する体験交流を行うことにより、地域の魅力や農業・農村生活に関する理解と関心を深めるとともに、地域農業の後継者と消費者の環を生み出すことを目的として、毎年開催されている。

当日は、県内外から女性3名、男性5名が参加した。海南市下津町の道の駅「海南サクアス」でトーク会を開催し、農業の話などで交流を深めた後、みかんの園地に移動し、ゆら早生の収穫体験を実施した。園主が世界農業遺産に認定された有田・下津地域の石積み階段園みかんシステムについて説明した後、みかんの採り方やおいしいみかんの見分け方などについて説明しながら収穫作業を行った。その後再び道の駅に戻り、収穫したみかんを使ってジュース絞り重量当てを行い、皆で盛り上がった。

参加者からは、「みかんの収穫体験は初めてでいい経験になった」、「搾りたてのみかんジュースがおいしかった」などの感想が寄せられ、農業に関する理解を深める良い機会となった。



道の駅での交流

## Ⅱ 那賀振興局

### 1. 重点プロジェクト【次世代を担ういちご生産者の確保・育成】 ～那賀いちご若手コミュニティが勉強会を開催～

那賀振興局では、いちごの若手生産者の仲間づくりや栽培技術等の情報交換ができる場として、令和6年7月に「那賀いちご若手コミュニティ（以下、コミュニティ）」を立ち上げ、定期的に勉強会等を開催している。

10月22日、コミュニティメンバーである前田氏の企画により、那賀振興局において、いちごの資材に関する勉強会を開催し、メンバー14名が出席した。

前田氏が講師を務め、自身が試した様々ないちごの育苗資材の、メリット、デメリットについて紹介された。育苗資材を駆使した苗は、クラウン径が太く根が真っ白であったことから、参加メンバーから驚きの声が上がった。また、近年注目されているバイオスティミュラント資材やエタノールによる高温対策等、興味深い内容が多く、終始質問が飛び交っていた。

また、10月28日には、農業試験場において農薬に関する勉強会を開催し、メンバー13名が出席した。

初めに、クロップライフジャパンの農薬に関する動画を視聴し、その後、農業試験場の菱池主任研究員からいちごの代表的な病気とその対策について講義を受けた。

次に、いちごの育苗圃場で、動力噴霧器を用いた水の散布練習会が行なわれた。付着程度が確認できるよう、いちごの葉の裏に水に濡れると変色する感水紙が貼り付けられ、参加者からは、「しっかり散布したつもりだったが、葉裏はほとんど濡れておらず驚いた。散布方法を見直したい」等の感想が聞かれた。最後に、いちごの試験圃場を見学し、勉強会が終了した。



いちごの資材に関する勉強会



散布練習会



## 2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

10月30日、那賀地方生活研究グループ連絡協議会(会長：坂口富子氏)はリーダー研修会を和歌山県植物公園緑花センターで開催し、会員13名及び市・振興局担当者が出席した。

講師にガーデンアドバイザーの福田正人氏を迎え、使用する7種類の花苗の特徴や定植後の管理方法について説明を受け、寄せ植えに挑戦した。

その後、各市協議会での活動状況や課題について意見交換を行い、会員同士交流を深めることができた。



寄せ植えに挑戦



意見交換会

## 3. 那賀地方農業士会女性部会（カトレア会）が交流会を開催

10月31日、那賀地方農業士会女性部会（カトレア会）（会長：台丸谷久実氏）が、交流会を開催し、6名が出席した。

昨年度の情報交換会で会員の特技を皆で教え合おうという意見があり、今回は、地域農業士の高井恵美氏から、コースターづくりを教わった。振興局からは農繁期の農作業安全について説明を行った。

コースターづくりのあとは、台丸谷会長の手づくりのお菓子とハーブティを頂きながら、お互いの近況や農作業の話など様々な話が飛び出し、参加者からは「久しぶりに楽しく話げた」と笑顔がみられ、和気あいあいとした有意義な交流会となった。

会員が皆集まる機会は少ないが、今後、グループの通信アプリの連絡ツールを活用して近況報告を行っていくことになった。



交流会の様子



会長手づくりのお菓子



### Ⅲ 伊都振興局

#### 1. 小学校でかきの渋抜き体験を実施

伊都地方特産のかきの美味しさを知ることにより、地域農業への理解を深めるとともに、地産地消の推進を図るため、伊都地方農業振興協議会（伊都管内の市町、JA、農業共済組合、振興局で構成）では、平成13年度から小学生を対象にかきの体験学習を行っている。10月はかきのお話とかきの渋抜き体験を、管内及び大阪府守口市、和泉市の10校の小学校において、426名の児童を対象に実施した。

かきのお話しでは、和歌山県が日本一のかき産地であることや、かき農家の作業、加工・流通等について、クイズも交えて楽しみながら説明し、渋抜き体験では、脱渋処理の作業を実演し、児童に同様の作業を体験していただいた。

11月からは、渋抜き体験にかえて吊るしがき体験を実施する。



かきのお話を聞く児童



渋抜き体験

#### 2. 梅干し贈呈式および「うめと梅干しのお話し」の実施

10月14日、和歌山県、和歌山県漬物組合連合会、和歌山県教育委員会共催のもと、橋本市立学文路小学校にて1～3年生の生徒21名を対象に梅干しの授業を行った。

本事業では県特産品である「梅干し」の歴史、生産方法や機能性などを理解し、より一層身近なものとして梅干しを食する習慣を養い、食への関心を持つことを目的としている。

はじめに、農業水産振興課の南方普及指導員が本県でのうめの栽培状況やクビアカツヤカミキリの説明を行った。

また、和歌山県漬物組合連合会から株式会社味好屋の泰地氏及び株式会社大野農園の大野氏による梅干しの贈呈式を行い、その後フリップを用いてうめの花や梅干しの歴史、効能などに関するクイズを実施した。生徒からは「梅干しはどうやってできるのか」などの質問があがった。



梅干しの贈呈式



梅干しの説明

## Ⅳ 有田振興局

### 1. 御霊小学校で温州みかんの出前授業を開催

有田川町の御霊小学校では、地元産業への理解を深めるため、総合的な学習の授業で温州みかんの学習を行っている。

10月2日、3年生69名の2回目の学習として、みかんの収穫の授業を行った。

授業では、最初に地域農業士の玉置泰伸氏および当課の普及指導員らによる指導のもと、学校近隣の園地で収穫体験を行った。その後、武内普及指導員がみかんの栄養成分等についての授業を行い、糖度計を用いて、収穫したみかんの糖度を計測した後、児童らが試食を行った。

児童からは「自分の選んだみかんは糖度9だったが、甘く感じ、おいしかった」「春から観察を続けてきて、やっと食べることができてうれしい」等の感想が聞かれ、収穫の喜びを児童らに体験してもらうことができた。



玉置氏による収穫の実演解説



みかんの糖度測定と試食の様子

## V 日高振興局

### 1. 日高果樹技術者協議会が総会を開催

10月3日、JAわかやま紀州地域本部、農業共済組合、教育機関、市町、果樹試験場うめ研究所及び日高振興局農業水産振興課の技術職員で組織する日高果樹技術者協議会（会長：柏木雄人氏）は、現地研修会と令和7年度総会及び講演会を開催し、28名が出席した。

現地研修会では日高川町のMIDOFARM農場を訪問し、代表の道仙信也氏から国産コーヒー栽培の取組について説明を受けた。参加者からはコーヒー栽培における工夫点や課題について質問があった。

総会では、令和7年度の活動計画として、うめのクビアカツヤカミキリやモモヒメヨコバイ対策、柑橘の日焼け果・裂果防止対策に引き続き取り組むことを決定した。

また、総会後の講演会では、うめ研究所 中 一晃 所長から「県職員生活を振り返って」という演題で、うめに食入するアカマダラケンキスイの水浸漬技術の開発時の体験談や農家の所得向上に繋がる研究開発は現場のニーズを把握することが重要であることなどの話があった。



コーヒー農場見学の様子



講演会の様子

### 2. 重点プロジェクト【うめの安定生産による産地強化】

#### ～「南高」摘心+カットバック処理樹の現地検討会～

10月29日、「南高」摘心+カットバック処理樹の現地検討会が行われ、経営支援課、有田・日高・西牟婁振興局農業水産振興課の普及指導員及びうめ研究所の研究員9名が出席した。

現地検討では、うめ「南高」のカットバックに摘心処理を組み合わせた青梅生産性向上技術の普及に取り組んでいる日高及び西牟婁振興局管内の実証ほを巡回し、日高川町松瀬の実証ほでは、複数年の処理で形成された結果層の整理に重点を置き、実際にせん定しながら目合わせを行った。複数年摘心処理を行った場合の結果枝の間引き程度や結果層の切り下げ程度について意見交換がされた。今後の「南高」摘心+カットバック処理技術の普及活動に活かしていく。



意見交換会の様子



うめ研究所研究員による目合わせ



### 3. 施設ピーマンにおける天敵利用の推進

J Aわかやま紀州地域本部管内のピーマン部会（部会長：小森 要氏）では、数年前から殺虫剤の抵抗性が発達したタバココナジラミなど微小害虫の防除に天敵の利用を進めている。中でも令和5年から全国的にも注目を集めている土着天敵タバコカスミカメの利用に取り組んでおり、日高振興局ではJ Aわかやまの営農指導員と連携し、農業試験場の協力を得ながら技術普及に努めている。タバコカスミカメは、コナジラミ類のほかアザミウマ類にも有効で、捕食量が多いことが特徴である。

部会員らは、戸外にタバコカスミカメの温存植物であるクレオメやごまを栽培してそこに飛来した天敵を採集して施設内のピーマンに放飼し、定着を図っている。ピーマンの定植から1か月あまり経過した10月下旬には、今年から新規に天敵利用に取り組む部会員のほ場にタバコカスミカメ約2,000頭を放飼した。

今後は、天敵の定着状況を調査するとともに、その他病害虫の防除方法を指導していく。



吸虫管に採集した  
タバコカスミカメ



施設内への天敵の放飼(10月29日)

### 4. 「日高の味交換会」を6年ぶりに開催

10月30日、日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子氏）は、令和元年以来6年ぶりに試食を伴う形での「日高の味交換会」をみなべ町で開催した。

日高管内の生活研究グループ（支部）6グループ（御坊、由良、南部川、日高川町川辺、日高川町中津、日高川町美山）及び参加協力を要請した「明日を考える会」（会長：小田美津子氏）、松本眞紀子氏（個人）が、バラエティーに富んだ料理（計27品）を持ち寄った。

各グループが料理の特徴や調理ポイントなどの紹介を行った後、来賓・関係者を含む参加者約70名で試食し、意見交換を行った。試食中は、大阪関西万博に向けて製作された動画「和食の源流は日高にあり」を上映した。試食後は、来賓12名から講評があり、「伝統的な料理や創意工夫された料理の数々を若い人にも伝えてほしい」などのコメントがあった。

また、寺谷農園株式会社代表の寺谷雄二氏による「寺谷農園の取組」について講演があり、寺谷農園のこれまでの取組や、試食した料理の感想などの話を聞き、参加者との意見交換を行った。



持ち寄った料理を試食



## VI 西牟婁振興局

### 1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】 ～カットバック整枝+摘心処理樹のせん定及び農業機械の安全使用講習会を開催～

うめ「南高」の省力かつ着果安定対策として取り組んでいる摘心+カットバック処理樹に対するせん定講習会を10月15日に田辺市秋津川の実証園にて開催し、生産者32名とJAわかやま紀南地域本部営農指導員1名、農業水産振興課職員3名が参加した。

講習会では竹中普及指導員より、カットバック処理による低樹高化及び摘心処理により、収穫だけではなくせん定作業についても大幅に省力できることを紹介・実演した。留意点として、3L以上の大玉果生産を図るためには、連年の摘心処理により形成された結果層の間引き・切り下げ処理が必要であることを説明した。参加者からは「摘心処理によりせん定時間やせん定枝を拾って処理する手間が減る。導入したい」との感想があった。

今後とも摘心処理と組み合わせ、省力化につながるカットバック処理による低樹高コンパクト整枝の導入を推進していく。

また、せん定講習会終了後、会場を実証園の隣の園地に移し、(株)東海近畿クボタ紀南営業古久保所長他技術指導員による農業用ドローン、自動草刈り機などのスマート農機を中心に、農業機械の安全使用講習会を開催した。

最初に、(株)東海近畿クボタ紀南営業所からスマート農機の特徴や導入の利点及び注意点について説明した後、農業用ドローン、自動草刈り機の実演を行った。

その後、平岩技師より近年、農作業事故が増加傾向であることや、どのような事故が多いのかについて説明し、農作業事故防止のためのチェックポイント、熱中症の対処法等の啓発をパンフレットを用いて行った。

また、スマート農機導入のための補助事業に関して、行森普及指導員から「次世代につなぐ果樹産地づくり事業」について説明を行った。

参加者からは「高温期の防除は大変だが、ドローン防除なら熱中症を減らすことが期待できる」「自動草刈り機は便利だと思う。導入を検討したい」との感想があった。

今後も熱中症対策や農作業安全のための啓発を継続的に実施していく。



せん定講習



農業機械の安全使用講習

## Ⅶ 東牟婁振興局

### 1. 補助事業説明会を開催

10月15日、古座川果樹研究会（会長：新屋常夫氏）主催で古座川町役場にて県、町補助事業説明会を開催した。古座川果樹県研究会他10名の農業者が出席した。

最初に当課、橘普及指導員が果樹関係の補助事業を、橋本主査が担い手関係の補助事業を説明した。その後、古座川町上浦主査から古座川町単独補助事業について説明があった。

参加者からは、「各事業の限度額、対象となる対象品種、設備」や「事業を受けるにあたって所得制限はないか」といった質問があった。また、「有用な補助事業があることを知れた」、「今回の様な事業説明や事業に対する意見交換の場を定期的に設けてほしい」との意見があった。



説明会の様子

### 2. うめ摘心カットバックせん定講習会を開催

10月17日、JAわかやま紀南地域本部串本支部管内のうめ生産者7名に対してJAわかやま紀南地域本部および農業水産振興課がうめ摘心カットバックせん定講習会を開催した。

当課、橘普及指導員がマニュアルに沿って摘心カットバックせん定の概要、方法について説明を行った後、実際に樹をせん定しながらやり方を説明した。2.5メートルの高さまでに抑えるようにカットバックすること、摘心の際に邪魔にならないように徒長枝や立枝をせん定しておくこと、初めてカットバックをする際は翌年度の着果枝を確保すること等の注意点を伝えながら実演を行った。

参加した農業者からは「カットバックは思い切りよくせん定する必要があると感じた。」、「樹高を低く抑えられることは作業が楽になるので試してみたい」等の感想があった。



聞き入る参加者



せん定の実演



## VIII 農林大学校

### 1. 1年生のインターンシップ研修

9月24日～10月8日、本校1年生15名がインターンシップ研修を実施した。研修先については、事前に学生から卒業後の進路希望を聞き取り、将来に繋がる農業法人や先進的な取組を行っている農家や農業法人、JAに受入をお願いした。非農家出身の学生も多く、実際の農家での栽培管理や出荷調整作業など慣れない環境の中、初めて行う作業にも真剣に取り組み、これからの学校生活の中でも活かすことができる貴重な体験をすることができた。学生を受け入れてくださった研修先の皆様に感謝いたします。



JA直売所での研修風景



キヌサヤ栽培ほ場での研修風景

### 2. 2年生の市場流通研修

10月20～24日に大阪市内の市場で市場流通研修を行い、2年生13名が参加した。果樹コースと野菜コースの学生は、大阪市中央卸売市場の大果大阪青果（株）と大阪中央青果（株）で、花きコースの学生は、（株）なにわ花いちばで研修を行った。

研修では、セリの見学や、買い手の決まった農産物の仕分け作業等を行った。また、市場の機能や、和歌山の農産物の特徴等について説明を受け、質疑応答も行われた。

学生からは、「市場でもコミュニケーションをとり情報交換することが大切だと感じた」「フォークリフトが多く走っているのので、事故にならないように注意が必要だった」「セリの進み方や市場の仕組みが良くわかった」などの感想があった。

農林大学校では、学生が農産物流通の実態を学べるように来年度も引き続き市場流通研修を行っていきたい。



市場内の見学



市場に関する講義

## IX 農林大学校 就農支援センター

### 1. 令和7年度技術修得研修（第2班）開講

10月6日、技術修得研修（第2班）が開講した。県内外から9名の研修生が参加し、10月～翌年2月の5ヶ月間（全25日間）にわたり講義と実習を通じて農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。開講式では、黒沼所長から「25日間という短期間の研修なので、わからないところは質問しメモを取り、また、目標を持って積極的に行動し、研修仲間との情報交換も大切に頑張ってもらいたい」と挨拶があった。今後、計51コマの講義や特別研修、ほ場での実習を行っていく。



技術修得研修の開講式



温州みかん収穫実習



### 普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489